

第 25 期第 1・2 回 地域農林経済学会常任理事会議事録

日 時：2025 年 2 月 9 日（日） 15：00～17：45

場 所：オンライン（Zoom）

議 長：伊藤淳史

記 録：川崎訓昭

出席者：伊藤淳史、大仲克俊、小川景司、川崎訓昭、北野慎一、鬼頭弥生、木原奈穂子、草処基、坂梨健太、柴崎浩平、住本雅洋、高篠仁奈、高田晋史、竹歳一紀、中間由紀子、中村貴子、長命洋佑、西村武司、野中章久、Feuer Hart Nadav、松下秀介、Keshav Lall Maharjan、Keeni Minaksh、山口道利（以上 25 名、五十音順、旧常任理事を含む）

- 1 議長選出：議長に伊藤淳史氏が選出された。
- 2 会長挨拶：竹歳会長より就任の挨拶がなされた。

議事

（1）新執行体制について

竹歳会長より会長指名理事および監事について提案があり、その旨承認された。

（理事）伊藤淳史、小川景司、北野慎一、Keeni Minakshi、西村武司、Feuer Hart Nadav

（監事）浦出俊和、矢倉研二郎

これを受けて、第 25 期常任理事会の執行体制について、以下の通り報告があった。

【新常任理事】（○印は責任者）

会長	竹歳一紀
副会長（学会賞担当）	辻村英之
副会長（組織・広報担当）	Keshav Lall Maharjan
庶務	○伊藤淳史、川崎訓昭、山口道利
会計	○木原奈穂子、長命洋佑
編集 （常任編集委員）	○北野慎一、住本雅洋、中間由紀子、西村武司、松下秀介 上田賢悦、工藤春代、増田清敬、三輪加奈
企画	○清原昭子、小川景司、坂梨健太、中村貴子
組織・広報	○鬼頭弥生、柴崎浩平
国際化担当	○高篠仁奈、Keeni Minakshi、草処基、Feuer Hart Nadav
監事	浦出俊和、矢倉 研二郎

（2）年間スケジュールの確認について

第 25 期の年間スケジュールについて、山口庶務担当理事より説明があり、内容を確定した。

なお常任理事会の日程は、第 3 回：4 月 20 日（日）13：00～（第 1 回大会実行委員会も開催）、第 4 回：9 月 27 日（土）、第 74 回大会の開催日は 11 月 1 日（土）・2 日（日）となった。

また、第 3 回常任理事会は対面開催（@京都大学）とオンラインとのハイブリッド開催とする。

(3) 理事会・総会の議事録の確認

伊藤庶務担当理事より、2024 年度理事会、同総会の議事録について報告があり、承認された。

(4) 2024 年度大会の結果について

・大会受付者数（庶務）

伊藤庶務担当理事より、大会対面受付数、および理事会実出席等の課題について報告がなされた。

・大会シンポジウムおよび個別報告について（企画）

松下企画担当理事より、大会シンポジウム、特別企画、特別セッション、個別報告エントリー数・報告数、および個別報告優秀賞のエントリー数・選考対象数と次回大会への課題について報告がなされた。

・国際シンポジウムについて（国際化）

高篠国際化担当理事より、国際シンポジウムの参加者数報告についてなされた。

・大会決算報告について（会計）

木原会計担当理事より、大会決算報告がなされた。

(5) 引き継ぎ事項と今後の課題について

1) 企画

中村企画担当理事より、引継ぎ事項および今後の課題として、①個別報告座長への連絡方法の検索、②特別セッションの運営、③個別報告のプレゼンファイルの事前提出、④大会シンポ・国際シンポ・個別報告のハイブリッド対応について、報告がなされた。

2) 会計

木原会計担当理事より、引継ぎ事項として、①赤字会計により剰余金残額が危険水準に陥りつつあること、②社会人院生を含めた学生会員の取り扱い、③学会会計における会計の将来的な見直しについて、報告がなされた。

3) 編集

北野編集担当理事より、25 期編集体制について報告がなされ、引継ぎ事項として、①編集委員の委嘱期間の明確化、②報告論文と研究論文の両区分の関係の見直し、③研究倫理上の問題への対応について説明がなされた。また、今期の検討事項として、①研究倫理や AI 利用に関する規定作り、②論文の早期公開システムの仕組みづくり、③アドミニストレイティブ・リジェクトの導入、④テンプレートおよび投稿規定細則の見直し、について報告された。

4) 組織・広報

鬼頭組織・広報担当理事より、引継ぎ事項および今後の課題として①学生会員の取り扱い、②英語サイトの充実に向けた作業継続、③学会英語略称統一の問題、④新システム Clara への移行、⑤協賛団体への対応、⑥支部大会のあり方、等について説明がなされた。

5) 国際化

高篠国際化担当理事より、今後の課題として、①国際ワークショップの報告者・参加者の範囲拡大、②国際シンポジウムの参加者数増加に向けた大会日程および海外送金方法の検討、③学会ウェブサイトのバイリンガル化作業について報告がなされた。

6) 庶務

伊藤庶務担当理事より、引継ぎ事項および今期の課題として、①学会英語略称の問題、②理事会の実出席の少なさへの対策、③常任理事会の持ち方について、④Clara への移行について、報告がなされた。

(6) 国際ワークショップ発表英論文助成事業実施要領の改正について (国際化)

高篠国際化担当理事より、助成規定に①会員としての会費納入済みであること、②ハゲタカジャーナルへの対応として適切な査読の確認、③補助額の最大額を12万円、④「国際ワークショップ発表英論文助成事業実施要領」から「国際ワークショップ発表英論文奨励事業実施要領」への名称変更、と改正することが提案され、了承された。

(7) 学会誌編集状況について (編集)

北野編集担当理事より、学会誌の編集状況、個別報告論文の審査状況、副編集委員長の選出、編集委員体制について報告がなされた。

(8) 2024 年度決算について (会計)

木原会計担当理事より、2024 年度決算について報告がなされた。

(9) 学会入退会について (組織・広報)

鬼頭組織・広報担当理事より、会員の入退会（新規入会者5名、退会者38名）について、報告がなされた。

(10) 学会賞選考委員の選出について

辻村副会長より、2025 年度学会賞選考委員4名については決定していること、および、推薦要領と推薦の締め切りについて報告がなされた。

(10) 2025 年度大会に向けて (企画)

中村企画担当常任理事より、大会企画として、第75・76回大会統一テーマ「地域農林業問題研究への新たな接近：食料を人々に届ける」、その下でのシンポジウム案に関する報告がなされた。

(11) その他

1) 日本農学会総会報告 (会長)

竹歳会長より、2月8日開催の日本農学会総会の報告として、日本農学会大会が4月5日に東京大学、日本農学会シンポジウムが10月4日に東京大学で開催されることが報告された。また、学会連合連絡会に参画する際に「一般社団法人日本農学会」の名称についてのアンケートが実施されるため、後日回答方法を検討することとした。

2) 今期の規定・契約書の確認作業について (庶務)

伊藤庶務担当理事より、担当ごとに規程集および中西印刷との学会事務業務委託契約書を確認するよう依頼が行われた。

3) 国際ワークショップの鳥取大学との共催について (国際化)

高篠国際化担当理事より、国際ワークショップを鳥取大学との共催で開催する旨の報告があった。

4) 中国支部・四国支部の今後のあり方について (長命常任理事(中国支部代表))

長命常任理事（中国支部代表）より、中国支部と四国支部の所属会員の減少に伴う支部の統合につい

て情報提供があり、今後議論していくこととなった。

5) 長期学生会員について(会計)

木原会計担当理事より、正会員にも関わらず長期に学生会員として登録してきた会員の差額会費の徴収について情報提供があり、組織担当と会計担当で議論していくこととなった。

最後に、マハラジャン副会長より挨拶があり閉会した。

以上